



令和6年度第1回学校運営協議会（CS会議）開催

令和6年5月30日（木）14：35より上山中学校で開催されました。

《 第1部 》 授業参観（6限）

《 第2部 》 運営協議会

〔1〕開会のあいさつ 山崎 光子 会長

今年度、新たなメンバーと共にスタートすることになりました。

昨年度末には生徒会の子供達からはつらつとした意見を聞き、今年も是非参加して欲しいと思いました。学校運営協議会が活発な意見とお互いが切磋琢磨できる会にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



〔2〕運営協議会委員紹介

山崎 光子 会長	県人権擁護委員連合会会長	桑原 通泰	上山中学校校長
朝倉 奏 副会長	金寶寺副住職	齋藤 大紀	上山中学校教頭
原 政之	鳥屋野地区公民館館長	倉島 庸子	上山中学校教頭
小野 照子	新潟市議会議員 鳥屋野小学校 CS オブザーバー	伊與部 直哉	教務主任
山岸 希	地区民生委員児童委員協議会会長 鳥屋野小学校地域教育 CO	渡辺 学	生徒指導主事
藤田 松夫	上山中学校区育成協会会長 上山コミュニティ協議会会長	岡本 敏之	特別支援教育コーディネーター
阿部 洋一	上山中学校後援会会長 鳥屋野コミュニティ協議会会長	奥山 貴生	事務職員
吉原 幹治	上山中学校 PTA 会長	南 恵津子	CS事務員
		小林 洋子	CS事務員

〔3〕地域と学校パートナーシップ事業

今年度の取り組みについて説明があり、次のような意見がでました。

（委員）

学校で行われる避難訓練に自治会からも参加し、生徒と交流をもちたい。鳥屋野校区で自主防災訓練がある。中学生の参加を期待している。

（学校）

生徒に対し、地域の一員として協力してほしいと呼びかけます。



〔4〕上山中学校の現状と課題

学校運営の基本方針・教育ビジョンと学校教育ビジョン評価シートの説明があり、

桑原校長より次のような話がありました。

まず、子ども達の自己有用感を高めるには、人から感謝されたと感じることが必要で、そのメッセージを伝える一番大事な言葉は「ありがとう」だと思う。自己有用感が育っていけば、「自分は大事な存在なんだ」「今の自分でいいんだ」という価値観をもてるようになっていく。これが自己肯定感に繋がると思う。

ただ、幼少期からこのような言葉かけがなかなかされない子どもがいるのも事実で、困難さを表に出せず耐えて我慢して適応できなくなってくると学校に行かないという選択をする子どももいる。

皆様のご協力をお借りし「ありがとう」のシャワーをいろいろな場面でかけていただき「私はこれでいいんだ」と自信をもって、この学校を卒業し、地域で活躍できる子ども達を育てていきたい。

そして、次のような意見がありました。

不登校について

(委員)

- ・ 不登校の主な原因・理由にどんなものがあるか。
- ・ 子ども達は将来の国の財産、不登校の子どもが自信を高められる何かきっかけを与えるのが、学校ではなかろうか。
- ・ 学校だけでなく、家庭の事情とかいろいろなことが絡みあって不登校になっている子どももいると思う。不登校の数値にだけ注目せず、子ども自身が自分で行動できるようになってほしい。
- ・ いろいろな子どもに対し周りの人たちが「宝物だよ、君たちは」と伝えることで、子ども達は自分らしくいてもよいと思えるだろう。地域の連携を深めていくことも考えていかなければならない。

(学校)

不登校の主な原因は様々で一概には言えない。現状をしっかりと受け止め、皆様の貴重なご意見を基に未然防止や個別の対応策、教育課程など、様々な視点で見直し、改善できるよう努めたい。

〔5〕閉会のあいさつ 朝倉 奏 副会長

今日、自己有用感・自己肯定感という話がありました。何かをしたことによって、それを評価されて「ありがとう」と言われるだけではなく、ただ「そこに居てくれてありがとう」という言葉があっても良いと思います。ただそこに居るだけで大事な人だと伝わるのではないかと思います。

地域の方が果たす役割は、その「来てくれてありがとう」「今日も元気な姿を見せてくれてありがとう」という何でもないような「ありがとう」の声かけではないかと思います。それが子ども達に伝わって前向きな気持ちになってくれたらいいと思います。

